

(1)事業名称等

【事業名称】寺町谷中の歴史的風致を守り、活かす防災対策の検討

【実施団体】特定非営利活動法人たいとう歴史都市研究会

【事業経費】1,500,000円

(2)事業の目的

江戸からの寺町、谷中は、震災や戦災で焼失を免れた地区が多く、坂と樹林、江戸以来の道筋・町割・寺院、明治大正昭和の町家・長屋・屋敷等が残り、「日本の美しい歴史的風土100選」に選ばれている。江戸東京の歴史的な生活文化を引き継ぐ町として、移住を希望する若い世代や国内外から多くの旅行者も増えおり、「外国人が訪れてよかった場所30選」にも選ばれている。

一方、所有者の高齢化や現在の建築基準法に合致しないことなどから、歴史的な木造建築の維持管理・大規模改修の困難が増している。密集市街地整備促進事業の中で不燃化促進のための老朽木造建造物の建替促進、除却支援等も進められており、所有者・居住者が建物の歴史価値や保全の方法に気づかないままに歴史的建物が失われることも危惧される。歴史的建物は、まちの暮らしの文化の証であり、新たな建物を建てる場合でも、地域の暮らしや風景に馴染む家のあり方を知る原型として保全・活用していく意義がある。

本事業は、寺院や町家等の伝統木造建築群を有する谷中の歴史的風致を保全する取り組みの中に、防災、特に「防火」の視点を位置付け、その基本的な考え方を整理し、所有者や活用者、地区住民等が取り組み得る対策を提案し、予防と被害軽減のための協力体制を築くために実施する。

木造、路地といった、防災上危険とみなされる要素の中には、地区の経済活動やコミュニティの活気を持続させ、ひいては安全安心を支える重要な資源が含まれているのが谷中の特徴である。そのため、建築安全、密集市街地の不燃化等の重要性を理解し、これを谷中界隈で取り組まれてきたまちづくりの方針に合わせて推進する方法を検討し、提案することが本事業の目的である。

「たいとう歴史都市研究会」では、谷中界隈の建物の歴史的価値や生活文化の魅力を所有者や地区内外の人々に伝える取り組みを重ね、明治から昭和初期の伝統木造建築を借り受ける等して、文化活動拠点やカフェ、シェアハウス等として管理運営している。また、所有者と活用希望者のマッチングを行い、空き家の解消にも努めてきた。今後、このような取り組みを推進するにあたり、所有者や活用希望者が災害に対して適切な理解と対策の上に「残すこと」、「使うこと」を選択できるよう、検討の成果は「防火の手引き」等とした小冊子にまとめる。火災に関する基礎的情報を共有し、谷中における火災のリスクについて共通理解を持ち、地区全体で取り組むべきことがらを認識して防火体制の強化を図ることも、本事業の目的の一つである。

(3)事業活動の内容

1) 伝統木造建築の防災対策検討：

- ・ 谷中地区の伝統木造建築の分布、減少の動向や維持管理状況を把握した上で、防火対策の検討モデルとする建物を選び、調査検討を行った。対象は、当会が管理運営している市田邸（国登録文化財）、カヤバ珈琲、旧平櫛田中邸、間間間の4棟のほか、建物類型や規模、立地環境等の視点から検討対象に偏りが出ないように、地区内の伝統木造建築6棟を選んだ。
- ・ 伝統木造の理解と活用の普及にむけて、一般住民や学生を対象に建物実測調査研修を行った。

- ・ 調査については、当会のメンバーに加え、東京藝術大学、もば建築文化研究所、地域の生活文化に詳しい地域団体、町会、消防署、消防団、建物所有者の方の協力を得て行った。

2) 防災対策講座の実施

谷中地区の木造建築と防火に関する勉強会を下記の通り実施した。

第1回 「谷中の建物と暮らしを活かす～木造建築の防火対策～」

日時:平成 26 年 9 月 10 日 19:00~21:00

場所:上野桜木市田邸

講師:安井昇氏(桜設計集団一級建築士事務所)

第2回 「伝統木造建築群を活かす、まちぐるみの防災対策」

日時:平成 26 年 9 月 27 日 10:00~15:00

場所:川越市川越伝統的建造物群保存地区

講師・案内:荒牧澄多氏(NPO 法人川越蔵の会)

第3回 「谷中の伝統木造の防火 安全性を高めよう！防火対策のお話&消火訓練」

日時:平成 26 年 11 月 3 日 13:00~16:00

場所:上野桜木市田邸

講師:長尾充氏(東京藝術大学教授) 「木造文化財建造物の防火対策」

山崎新蔵氏(上野消防署谷中出張所長) 「谷中界隈の火災のリスクと防火対策について」

佐藤明人氏(上野消防団第七分団長) 「地域のみなさんとの連携した活動を目指して」

上野消防署谷中出張所による初期消火訓練と通報訓練

第4回 「寺町谷中の木造と路地を活かせるまちづくり」

日時:平成 27 年 2 月 7 日 13:00~16:00

場所:谷中 観智院

講師:後藤治氏(工学院大学教授)

3) パネル作成・出展

谷中地区の伝統木造建築の分布状況、伝統木造建築の保存活用事例等についてパネル化し、まちじゅう展覧会「芸工展」の期間中展示を行い、来訪者に対して谷中地区の建物の特徴やその保全活用の工夫について紹介した。防火対策についてのパネルもあわせ今後の活動に活用していく。

日時:平成 26年 10月 12日 ~19日、22日~26日 11:00~17:00

場所:旧平櫛田中邸

4) 谷中地区 木造建築の防火の手引きの作成

1)~3)の調査、勉強会、展示等を通して、伝統木造建築に必要な防火対策、建物所有者や地域の方々の声、消防署や防災団等による防災活動、伝統木造の多いまちにおける防火対策と課題などを把握し、今後の防火対策に役立てて頂くための冊子「谷中地区木造建築防火の手引き」を作成した。

(4)事業の成果

1) 伝統木造の防災対策検討

- ・ 谷中地区の木造建築の分布と減少動向を確認し、戸建型、町家型、長屋型、木造アパート、寺院等、および路地型、通り型等、建物のタイプや立地別に課題を整理することができた。
- ・ 谷中地区の伝統木造の所有者・活用のまちと建物に関する想い、維持・活用、防火対策について抱える課題などを把握した。

2) 防災対策講座の実施

第1回 「谷中の建物と暮らしを活かす～木造建築の防火対策～」

- ・ 参加人数 15人
- ・ 一般的に火に弱いとされる木造建築だが、実証事件に基づき、材の太さ、厚み、仕上げなどにより一定の防火・耐火性能を持ち、適切な維持管理により性能を維持できることがわかった。
- ・ 木造火災の進行の段階、初期消火、避難のポイントなどを理解することができた。

第2回 「伝統木造建築群を活かす、まちぐるみの防災対策」

- ・ 参加人数 10人
- ・ まちぐるみの防災と修理修景事業を総合的に行っている川越の伝統的建造物群保存地区を実際に見学し、防災と伝統木造や歴史的風致を両立する様々な制度事業の組み立て、自治体と住民、地域の専門家の協力体制を知ることができた。
- ・ 11月25日、荒牧講師により川越の取組を谷中地区まちづくり協議会・防災部会でも紹介した。

第3回 「谷中の伝統木造の防火 安全性を高めよう！防火対策のお話&消火訓練」

- ・ 参加人数 25人
- ・ 明治の戸建て住宅「市田邸」（国登録有形文化財）を会場に、防災対策の講座と消火訓練を行ったことにより、木造住宅での消火活動のポイントを参加者が実感を持って理解できた。
- ・ 文化財建造物の防火対策を文化財未指定の木造建築の防火対策にも活用できる工夫、数棟を連動する火災報知器などについて知ることができた。
- ・ 消防署と消防団のとりくみから、谷中地区の防災体制、防火と初期消火における住民の役割、生活上の配慮事項などを具体的に知ることができた。
- ・ 伝統木造の建物所有者、お年寄り、シェアハウス住人、小さな子どものいる家族が参加し、様々な方に防火対策を普及できた。町会や自治体でなくても、地域グループや事業所単位でも消防署に依頼すれば防災訓練が行えることも周知できた。

・

第4回 「寺町谷中の木造と路地を活かせるまちづくり」

- ・ 参加人数 39人
- ・ 伝統木造と路地の多いまちの防火対策について、日本と海外の例を比較しながら紹介いただき、様々な工夫や取り組みを知ることができた。
- ・ 建物の防火耐火対策、消火栓、報知器などハードでできることと、日常生活の中で維持管理、近隣との協力で災害時に対処できるソフトの関係づくりの重要性を知ることができた。

3) パネル作成と展示

- ・ 芸工展期間中は他の文化企画との協働開催のため、多くの方が展示に訪れていただいた。
- ・ 旧平櫛田中邸の座敷やアトリエ空間の中で、木造建築の魅力と、維持管理の課題をあわせて体験頂いた。当番者との相談、トークイベントでの協議など多様な対話の場を持つことができた。
- ・ 作成したパネルは今後の勉強会や展示でも引き続き活用していく。

4) 谷中地区 木造建築の防火の手引きの作成

- ・ 防火の手引き冊子を1000部作成した。
- ・ 谷中地区の伝統木造建築の所有者、活用者をはじめ、町会・消防団等の地域組織にも配布し、一人一人の防火対策、まちぐるみの防災体制の強化に役立てて頂く。



(5) 事業実施後の課題

- ・ 本事業により整理した、谷中の伝統木造の状況や建物タイプ別、立地別の防火対策の課題をより多くの地域の方、建物所有者・活用者に周知・普及していきたい。
- ・ 地域住民への周知については、今後地区町会連合会の協力を得て回覧板・掲示板等も活用させていき、地域住民の方への適切な情報提供をはかりたい。

(6) 今後の展開

- ・ 平成27年度は、作成した「防火の手引き」をもとに、地域の伝統木造の所有者・活用者に対して木造建物やまちの防火対策や維持管理の情報をひろめていきたい。
- ・ 今後実測研修を継続的に行えるしくみをつくり、所有者・活用者が伝統木造の建物の維持管理を自分で考える機会を増やし、建物価値の調査に協力できるメンバーも増やしていきたい。
- ・ 本事業では防火対策を中心に整理したが、将来的には伝統木造の耐震対策、維持管理活用の工夫についても、地域団体、専門団体とも協力して検討していきたい。
- ・ 谷中地区全体の防災性能の向上と歴史的建物、歴史的風致・暮らしの文化の両立のしくみについて、今後、谷中地区住民の方々との協議、消防署、台東区・東京都などの関連諸機関への相談を通して、具体的な解決策を見いだしていきたい。

(7) その他 文化財建造物の管理活用に関する提案・新たな発見など

- ・ 指定文化財や登録文化財建造物の防火や耐震、維持管理・保存活用に関する工夫を、未指定の建物にも活用できるようにしていきたい。
- ・ 谷中地区のとりにくみと連動して、隣接する根岸や根津、千駄木などの伝統的建造物や歴史あるまちの暮らしと文化を保全活用する団体のネットワークがはじまっている。
- ・ 伝統木造の建造物は、現状では建築基準法にあわず、通常取引や公的な支援が得にくい状況にあるが、近年、歴史的建物について建築基準法の適用除外をしつつ、保存活用計画をたてて保存改修を認める独自条例が各地で制定されつつある。歴史的建物活用に関する融資制度なども検討し、歴史的建造物を地域再生資産ととらえ、安全性を向上させつつ一般市場の中でも保存活用できる道を広げていきたい。